

又子供の教育をもつと自由な、束縛のない、活潑なものに組織しやうとする運動についても、細論する違はない。オットー・グルリット、モンテッソリー、フヘルニーの諸氏は、幼稚園改良についての意見やら實例やらを澤山提供して居る。要するに、現今幼稚園改良の根本問題は「フレーベルか非フ

## 小兒の傳染病（その二）

△麻疹

麻疹は子供に限つた病氣ではなく、どんな時期でも、年寄でも、誰れでも罹る筈のものであります。然るになせ子供に多いかと云ふと、大抵子供の時に一度罹つてしまつて、免疫を得て、もう大人になつて、からは再び罹ることがないからさう思はれるのであります。而して大抵の人は一度は罹るべき病氣で、非常に多く擴がつて居る病氣で

レーベルか」に在るとを忘れてはならぬ。氏は以上の諸問題を解決するために、盛に私立幼稚園を興して研究し、當局者の優柔なすなきを刺戟してやらなければならぬ。されば幼稚園もその面目を一新して延いて家庭教育のためにも光明を與へるであらうといつて居る。

醫學士 石 塚 保 吉

あります。明治天皇には一度もお罹りにならなかつたと申すことであります。

此の病氣の流行する時期は定りがありません。殊に都會などは一年中あります。併し特に多い時期は寒い時の方です。これは寒い季節は氣管支カタル感冒等が多くあつて、傳染に都合がよいからであります。

麻疹は一度罹れば、二度と罹ることはないとし

てあります。併し稀には二度も三度も罹つたといふことがあるが、そういう時は、他の類似の病氣、例へば風疹、フヒラトウデューク氏病等のやうに、麻疹に甚だよく似て、それより軽いものがある、それ等と間違へたのであらうと思はれるのであります。とにかく麻疹は割合に完全に免疫性を得られるらしいのであります。これに罹る年齢は矢張りインフルエンザと同じく、生後一、二年から五、六年の間が最も多いのであります。

うつりかたは觸接の傳染が最も多く、空氣傳染もありますが、それは極近い處に相對してゝも居るのでなければそうは移りません。それから患者の鼻汁、涙、唾液等の中に病毒が潜んで居りますから、そういうものに觸れると移ります。要するに傍に近寄らなければ移らないのであります。この病氣の初めは一寸わかり難い場合がありますが、多くの場合は、初めに熱が出て、それと同時に眼や其の他粘膜炎が胃されて、涙が出たり、眼脂が出

たり、鼻が塞り、鼻汁が出、咳嗽が出ます。それを前驅期と云ひます。その時分に氣をつけて咽喉を觀ると、上腭に赤いポツ／＼が出来て居る、これを内疹と云ふ、それは麻疹特有のものではないが、出来ることが多いのであります。麻疹に特有のもの、頬の中にコブリツク氏斑と云ふものが現れます。頬の内面に白い芥子粒よりも小さい點が出来て、圍りが赤くなります。大抵五六箇から十數箇出来ます。これが見つかれば麻疹と決めて差支へないのであります。そんな風で一旦高く昇つた熱が少しく降り、結膜炎、鼻カタル及び鼻汁が出るのがやさしくなります。それで工合がよいと思つて居ると、再び熱が出て、結膜炎も、鼻カタルも再び強くなつて、發疹が出来て來ます、發疹は顔から始まります。殊に口の圍りが多く、それから上にも下にも擴がつてゆき、大概始まつてから二日位の間に全身に擴がり、その間は非常に熱が高いのであります。それから大抵三日目か、四

日目に、始めに出た部分から色が消えます即ち赤いのが褪めて、だん／＼黒くなり、痕には黒い形を残します。その形が消える迄には一週間乃至二週間かゝります。それと同時に熱もだん／＼降り、五六日で平熱になります。その後皮が剥けます。即ち落屑期に入ります。細かく、粉糠のなやう形になつて剥げます。すつかり剥げる迄に一週間かゝつて、そこが病氣が済みます。中に形の變つたのや、診断の難かしいのは特別として、通例の場合には先づ斯ういふ風に來ます。

昔から麻疹は命定めとか云つて、恐ろしがつたものですが、我々から觀ればそれ程恐ろしいものではないので、病氣の間に不養生さへしなければうまく済んでしまふのであります。恐ろしいのは合併症であります。氣管支肺炎、中耳炎等で、若し、熱が降る時期に降らないとか、或は更らに熱が昇つたりする時は、合併症が來たものと思つて注意しなければなりません。

麻疹の養生法は極めて簡單なものであります。寒い風に遇はない様にして、床の中に居て、柔らかないものを食べて経過を待つのであります。特別に早くすることも出来なければ、薬を飲んだからとて時期を早く過させることも出来ない、熱を下げやうと試むる必要もないのであります。たゞ非常によく人に移りますから、大勢子供でもあつたら別にして置くことが必要です。

#### △猩紅熱

猩紅熱は麻疹のやうに萬人が皆罹る病氣ではない。併し數は少なく、人に由つては先天的に免疫性をもつて居りますから流行する時でも、誰れもが罹るといふものではありません。麻疹も、猩紅熱もどちらも原因は未だわかつて居りません。やはり二三才から五六才の間に罹ることが多いのであります。發熱の當時から麻疹よりも遙かに猛烈であります。子供は非常に機嫌が悪く、急に高い熱、嘔吐を催し、頭痛が起る。身體は倦怠く、咽

喉が腫れて痛く、咳きこんだりします。幼児は極  
擧を起すことがあります。嘔氣と、咽喉の痛みと  
は此の病氣の特徴と云つてよい位、必ず咽喉が大  
きく腫れます。此の容體は一日位しか續きません。  
即ち斯ういふ兆候があらはれてから十時間から、  
廿四時間經つと發疹が現はれます。麻疹と違ひ、  
頸から胸それから背と云ふ順序で三四日の間に全  
身に擴がります。顔には出ないで、たゞ少し頬が  
赤くなる位です。殊に變つて居ることは、口の圍  
りがその反對に白くなり、非常にその對照が明ら  
かになります。發疹が出る間は熱が高く、それか  
ら退きます。初めは卅九度から四十度以上に達し  
三四日頃から發疹が退けると、それに従つて退き  
ます。發疹は麻疹に比べると非常に小さく、大抵  
芥子粒か胡麻粒位で、それが密生し、ひどくなる  
と境目が分らない程全身が眞赤になつて、その間  
に健康の皮膚を認めることが出来ません。麻疹の  
は粒が大きく豌豆位、或はもつと大きくなつた

りします。猩紅熱の中には只の發疹ばかりでなく、  
それが水泡に變るのがあります。これを粟粒性猩  
紅熱と云ひます。咽喉はいつでも非常に大きく腫  
れます。これを猩紅熱性アンギーナと云ふ。又舌  
にも變化が來る、高い熱の時分に、舌に白いも  
のが附きます。それは一日か二日のうちにとれて  
其の下から眞赤な面が現はれ、覆盆子のやうに見  
えるから覆盆子舌と云ひます。發疹が體に形を殘  
して居る間は二週間で、それから麻疹のやうに全  
身の皮が剝けます。これは麻疹と違ひ大きく剝け  
ます。顔のやうな皮の薄い處は細かく剝けるが、  
手足のやうな皮の厚い處はその儘剝ける、劇しい  
時は手袋や足袋を脱いだやうに、その形をして剝  
けてしまふ、こゝにいふことは外の病氣にはないの  
で、そればかりでも猩紅熱と定めてよいのであり  
ます。

傳染のしかたは矢張り觸接傳染で、これは玩具  
や、ハンカチーフなどから移ることがあります。

唾液、鼻汁の中にも病源が含まれて居ます。移るのは前驅期に多く移り、發疹期、落屑期になると移り方は少なくなります。此の時には合併症として中耳炎腎臟病は殆んど定まつて來ます。此の病氣はかなり恐ろしいもので、生命をとられるやうな場合も少なくないのであります。

#### △ジフテリア

麻疹百日咳の様にはありませんが子供に澤山あるのはジフテリアであります。これも何時といふことはないが、冬や春は多いのであります。これは多くの人々が御承知の通り恐ろしい病氣で急に來るもので、あまり前兆として氣がつかないうちにもう病氣になつてしまふのである。機嫌が悪いか食物の進まぬとか云つて居るうちに熱が卅九度位になつて、非常に早く病氣が進んで來ます。此の病氣の特徴は咽喉が急にはれて物を飲み込むとき痛く扁桃腺、或は咽頭の部分に白い義膜が附きます。場所に由つて違ふが、鼻に出來ると

膿のやうな臭い鼻汁が澤山に出る。咽頭につく時は扁桃腺が腫れて、その上に白い膜が出來る。それが喉頭に下つてくるとジフテリア特有の咳が出る。犬が吠えるに似た、引かゝつたやうな、非常に高く響く咳であります。熱が出て、その咳が出たら第一に疑を置いて差支いへないのであります。

此の病氣は非常に早く擴がるから、早く手當をしないと生命に關はります。一晚のうちに咽喉が塞つて窒息する様があります。疑はしいと思つたら直に醫師の診察を受けなければなりません。鼻や、咽頭につくのは危険が少いが、喉頭に出來た場合は窒息がくるから恐ろしいのであります。

療法としては血清療法が發明されてから非常に確實に効力を現はしますから時期さへ早ければ癒すことが出來ます。斯ういふ治療法は完全して居るが手後れになれば利きません。血清を注射して

も直には利かないので、全身を廻つて効力を現はす迄には十二時間かゝる手後れになると血清を注射してもそれが利く迄に病勢が進むから、その間に咽喉を塞いでしまふことがあります。故に血清があるからと云つて安心して居ると間にあはないで、血清は注射したが、危険が迫るといふことがある。若しそうなると氣管切開をして助けるのであります。夫れにて咽喉を切つて管を入れて呼吸させるのでありますか嫌がる人があるが、生命には代へられないから、そういふ場合には直に此の療法をとらなければならなりません。

此の氣病で最も恐ろしいことはジフテリア後の心臓麻痺といふことで、ぐづくして居る間にジフテリアのウイルスが心臓に入つて、心臓内膜炎を起します。此の病氣は決して癒らない、今迄に治癒した例がないのであります。そういふことがありますから、何に致せ一時も早く治療を受ける必要ががあります。

傳染の仕方は觸接傳染でありますから傍へ寄らないやうにして、唾液、鼻汁を嚴重に消毒しないと傳染の危険があります。療法は早く血清療法を受けるのがよいのであります。なほジフテリアの外にジフテリアと同じやうに咽喉に白いものがつく病氣があります。腺窩性アンギーナと云ふ病氣などはジフテリアに似て居りますが、さういふ區別をして居る餘裕はないから、疑はしい時は直に血清療法を受けるがよいのであります。病名を定めて居るうちに、眞のジフテリアになつてしまふことがあります。醫師は必らず勤めますから患者でも早く決断してその手當をする方がよいのであります。此病氣を八大傳染病の一になつて居りますから、入院して治療を受けべきものであります

春の野に心ある人の素顔かな

園 女